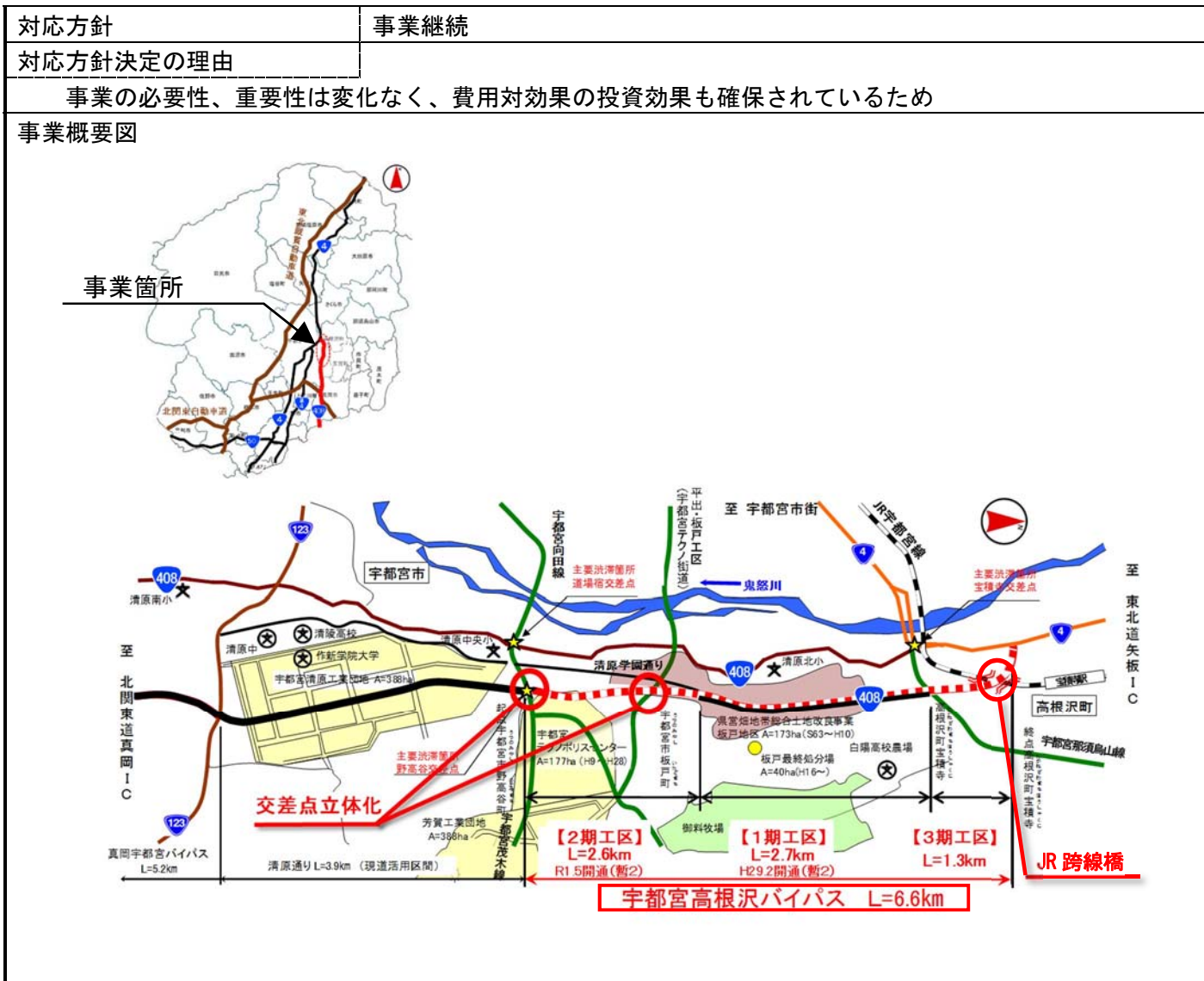


再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：前佛 和秀

事業名	地域高規格道路 常総・宇都宮東部連絡道路 一般国道408号 宇都宮高根沢バイパス		事業区分	補助国道	事業主体	栃木県
起終点	自：栃木県宇都宮市野高谷町 至：栃木県高根沢町宝積寺				延長	6.6km
事業概要						
一般国道408号宇都宮高根沢バイパスは、地域高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」の一部を構成する道路であり、交通渋滞緩和、北関東自動車道真岡ICへのアクセス強化、鬼怒川左岸工業団地群の産業支援を目的とし、宇都宮市野高谷町～高根沢町宝積寺までの延長6.6kmを整備するものである。						
H21年度事業化	—		H22年度用地着手	H24年度工事着手		
全体事業費	約283億円		事業進捗率	53%	供用済延長	5.3km(暫2)
計画交通量	34,700台/日					
費用対効果 分析結果	B/C		総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)
	(事業全体)	1.5	112/275億円		241/408億円	
	(残事業)	2.2	(事業費：106/269億円) (維持管理費：5.7/5.7億円)		(走行時間短縮便益：178/347億円) (走行経費減少便益：57/57億円) (交通事故減少便益：4.8/4.4億円)	
感度分析の結果						
(事業全体) 交通量 : B/C=1.3~1.6(交通量 ±10%) (残事業) 交通量 : B/C=2.0~2.4(交通量 ±10%)						
事業費 : B/C=1.4~1.5(事業費 ±10%) 事業費 : B/C=2.0~2.4(事業費 ±10%)						
事業期間 : B/C=1.5~1.5(事業期間±20%) 事業期間 : B/C=2.1~2.3(事業期間±20%)						
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> 地域高規格道路として、整備済みの真岡バイパス、真岡北バイパスや事業中の真岡宇都宮バイパスと一体となって、北関東自動車道真岡ICへのアクセス強化を図ることにより、県域を越えた連携・交流の促進や周辺工業団地の物流の効率化が見込まれる。 並行する国道408号から宇都宮高根沢バイパスへ交通転換するため、交通混雑の緩和や旅行速度の向上が期待される。 自動車の走行性向上による環境への影響低減(CO2, NO2, SPM削減) 						
関係する地方公共団体等の意見						
<ul style="list-style-type: none"> 宇都宮市、真岡市、高根沢町の2市1町による常総・宇都宮東部連絡道路・鬼怒テクノ通り整備促進期成同盟会より、建設促進が要望されている 宇都宮市、高根沢町並びに芳賀工業団地及び芳賀高根沢工業団地に立地する企業により構成される芳賀町工業団地連絡協議会から早期整備を要望されている 栃木県重点戦略「とちぎ元気発信プラン」においてスカイコリドールに位置づけられている 						
事業評価監視委員会の意見						
R3.1.15に開催した栃木県公共事業評価委員会において審議の結果、県の対応方針のとおり、事業の継続を妥当とする						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
<ul style="list-style-type: none"> 令和元年5月に宇都宮高根沢バイパスの一部区間を除き暫定二車線で供用開始 令和2年2月に真岡宇都宮バイパスが全線完成4車線で供用開始 						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
<ul style="list-style-type: none"> 用地取得率約99%、事業進捗率約53% 						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
<ul style="list-style-type: none"> 令和9年度の完了を目指し、JR跨線橋や交差点立体化、道路改良工を推進していく 						
施設の構造や工法の変更等						
<ul style="list-style-type: none"> 橋梁部において合成床版や耐候性鋼材を採用しコスト削減に努める 新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト削減に努める。 						



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。